

研究課題名	経尿道的膀胱腫瘍切除術における術中血行動態変動に影響する因子の検討 5-アミノレブリン酸との関連
研究の意義・目的	最近、泌尿器科における経尿道的膀胱腫瘍切除術の際に腫瘍を際立たせる目的で5-アミノレブリン酸(商品名:アラグリオ)という薬剤を手術前に内服することが一般的となりつつあります。腫瘍が見えやすくなり切除率の向上が見込まれるのが良い点ですが、一方で薬剤の副作用もあります。その一つとして手術中の血圧の低下が挙げられます。血圧が低下すると体中の臓器への血流が低下することで臓器に障害が及んだり、ひいては死亡率の増加にも影響することが近年の研究で分かってきました。本研究では5-アミノレブリン酸が手術中の血圧に対して量的・質的にどのような影響をあたえるかを検討します。本研究によって5-アミノレブリン酸の血圧への影響を知ることができ、この結果を応用して血圧低下の予防や治療法の開発・改良を進めることができます。
研究を行う期間	機関の長の実施の許可日～2026年3月
研究協力を お願いしたい方 (対象者)	2020年1月～2023年7月に大阪公立大学医学部附属病院で脊髄くも膜下麻酔を受け経尿道的膀胱腫瘍切除術を受けられた方が対象となります。
協力をお願いしたい 内容と研究に使わせ ていただく試料・情 報等の項目	診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。 診療情報:【患者基本情報:年齢、性別、診断名、既往歴、併存疾患、内服薬、入院時・手術当日朝・出棟前の血圧・心拍数・酸素飽和度、術前診察時の血液検査結果(ヘモグロビン濃度、血清クレアチニン、AST、ALT、ALP、総ビリルビン、直接ビリルビン、 $\gamma$ -GTP、血清アルブミン) 術中評価項目:術中血圧・心拍数・酸素飽和度、術中輸液の種類と投与量、術中輸血量、出血量、手術時間、麻酔時間、術中使用薬の種類と投与量、脊髄くも膜下麻酔レベル、局所麻酔の有無、術中の血液検査(ヘモグロビン濃度) 術後評価項目:手術当日・翌日の血圧・心拍数・酸素飽和度、術後合併症の有無、手術翌日・手術日より7日に最も近い日時・手術日より28日に最も近い日時・手術日より84日に最も近い日時の血液検査(ヘモグロビン濃度、血清クレアチニン、AST、ALT、ALP、総ビリルビン、直接ビリルビン、 $\gamma$ -GTP、血清アルブミン)】
試料・情報を利用する者の範囲	この研究は大阪公立大学医学部附属病院麻酔科のみで行います。
試料・情報の管理について責任を有する者の研究機関の名称	公立大学法人大阪、大阪公立大学医学部附属病院
本研究の利益相反	利益相反の状況については研究者等が利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。 本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
研究に協力を したくない場合	下記に連絡することでいつでも本研究への協力を拒否することができます。また、研究への協力を断っても、診療に関する不利益等を受けることはありません。
連絡先	大阪公立大学大学院医学研究科 麻酔科学 (担当者氏名) 藤本 陽平

電話番号：(06) 6645-2186

メールアドレス：v21794t@omu.ac.jp